

『旅』

text: む～

親が子供を連れて、旅をしている

旅の目的は、親の自己実現

親は、その旅の途中に子供に恵まれた

親は、ただただ道を進む

親は、たくさんの荷物を持っている

親は、余裕がないのに、子供という荷物まで増えたと思っている

親は、その荷物の多さからか、旅の不安からか、

時たま、相手の悪口を言ったりする、夫婦でけんかをしたりする

親は、その荷物の重さからか、子供にわずらわされないために、子供を厳しく育てようと試みる

親は、子供に言うことを聞かせるために、一人さびしい山に置き去りにしたこともあった

子供は、親の荷物を自分が引き受けたら、親が幸せになってくれると思う

子供は、親の荷物を自分が引き受けたら、少しは自分にもやさしくしてくれるのではないかと思う

子供は、少しずつ成長し、親の荷物を肩代わりする

しかし、親の荷物は一向に減る様子はない

親の荷物には、また違う荷物が増えている

子供は、その荷物も引き受けようと、がんばる

親は、子供に聞く

そんなに荷物を持って大変じゃないのか…

子供は、親が心配せぬように、平気だという

親は、子供に体力があると思い、さらに大きな荷物を背負わす

ある時、子供は、倒れてしまう

親は、子供に何が原因か聞く

子供は、親に心配をかけまいと、靴のせいだという

親は、子供に早く靴の修理をして、また荷物を担ぐように言う

子供は、立ち上がり、靴を直し、荷物を担ぎ進む

しばらくして、子供がまた倒れる

親は、子供に何が原因か聞く

子供は、親に心配をかけまいと、靴のせいだという

親は、子供に早く靴の修理をして、また荷物を担ぐように言う

子供は、立ち上がり、靴を直し、荷物を担ぎ進む

しばらくして、子供がまた倒れる

親は、ついに怒りだす

なぜ、そんな靴を履くのかと

その靴を脱ぎ捨て、新しい靴をはき、早く荷物を担ぎ進めと言う

子供は、荷物が多すぎて、これ以上旅を続けるのが苦しいとは言えない

子供は、親に荷物の一部を返したいとはいえない

子供は、親になぜそんなにたくさんの荷物を持っていくのかと聞けない

そして、なぜ、荷物をなしにして、旅をなしにして、自分の方を向いてくれないのかと聞けない

なぜならば、子供は親を大切に思っているから

なぜなら、子供は親の望みをかなえてやりたいと思っているから



しかし、三度倒れて、子供は気付いた
親の荷物を自分が肩代わりすることはできないのだと
親の荷物は、彼らが自ら下さない限り軽くなることはないのだと
そして、親の旅に付き合う必要もないことを

子供は、旅を止めることにした

子供は、親に「ありがとう」と言い、荷物を下に置き、「さようなら」と言った

子供の中に、ほわほわした、やわらかい何かを感じられた

今まで、親のしあわせが自分のしあわせだと信じていたので、いつまでもしあわせはやってこなかった
しかし、自分のしあわせは、実はもうすでにここにあった
自分が親の荷物を背負うことを止め、自分を旅に急かすことをしなければ、ここにあった

子供は、親に心から感謝した

子供は、親の旅に同行することがなければ、荷物を背負う大変さを知ることができなかつたろう
子供は、親の旅に同行することがなければ、人の荷物を背負ってやれないと知ることができなかつたろう
子供は、親の旅に同行することがなければ、荷物を下ろすことができることを知ることができなかつたろう

母親は、子供に自分達を捨てるのかと聞いてきた

子供は、そうだと答えた

母親は、子供のしあわせが私のしあわせだったのに、そんな私達を捨てるのかと聞いてきた

子供は、そうだと答えた

父親は、なんと勝手な子供だろうかと思った

子供は、ありがとうと言った

父親は、お前のような子供より、働き手になる養子を得れば良かったと言った

子供は、ありがとうと言った

子供には、ありがとうという言葉しか見つからなかった

子供は、またお会いしましょうと言った

私は、いつもここにいます

そして、ここにいて、いつもあなた方のしあわせを祈っています

旅に疲れたときには、いつでもお立ち寄りください

私は、ここにいて、いつもしあわせでいます

それが、私にできる精一杯の恩返しです

ありがとうございました

ありがとうございました

ありがとうございました

どんなに感謝しても足りない宝をあなた方は、身をもって私に気付かせてくださいました

ありがとうございました

ありがとうございました

ありがとうございました

